都会のカラス

～その被害と私たちにできること～

都会ではカラスと人間との間で様々な摩擦が生じています。
私たちの生活様式がカラスの増加を招いた主な原因です。

具体的にどのような被害が起きているのでしょうか。
私たちはどう行動すべきなのでしょうか。
カラスとの関係を見直してみましょう。

環境庁自然保護局

カラスとはどんな鳥？

通常、都会でカラスと呼ばれている鳥にはハシブトガラス、ハシボソガラスの２種があります。どちらも１年中、国内で見られます。
繁殖期は３～７月です。高木の上層部の幹と枝の間や太い枝の上に、枯れ枝を積み重ねて巣を造ります。ヒナは６月前後に巣立ちますが、しばらくは親鳥に養われています。夜間は高木林に集まってねぐらををとることが多く、その規模は冬期に大きくなるようです。
ハシブトガラスとハシボソガラスはよく似ていますが、以下のような違いがあります。また、都会で生ゴミを食べているのは、ハシブトガラスがほとんどです。

	ハシブトガラス	ハシボソガラス
姿	くちばしが太く、額が出っぱってみえる	くちばしが細く、額がなだらかにみえる
鳴き声	「カァー、カァー」と澄んだ声	「ガァー、ガァー」と濁った声
生息環境	山地の森林にすむが、近年都会に増えている	農耕地や河川敷のような開けた環境に多い

カラスの食物

雑食性で木の実や小動物、動物の死骸、生ゴミ、他の鳥の卵やヒナなどいろいろなものを食べます。
カラスが増えすぎることにより、捕食圧が高まり、他の生き物の生息に影響を与えることがあります。

●生ゴミ

●小動物・昆虫など

●ほかの鳥類の卵やヒナ

●カキ、ビワ、クルミなどの木の実

カラスによる被害

都会ではカラスの数が増えた結果、人との間で様々な問題が発生しています。代表的な例を紹介します。

ゴミの散乱

カラスはゴミ集積所などに集まり、ゴミ袋を破いて生ゴミを食べ散らかします。散らかったゴミは、まちの美観を損ない、ゴミ収集業務にも支障をきたします。

糞・鳴き声

ねぐらやその周辺のようにたくさんのカラスが集まる場所では、糞で建物などが汚されます。また、早朝から活動するため鳴き声がうるさいといった問題が発生しています。

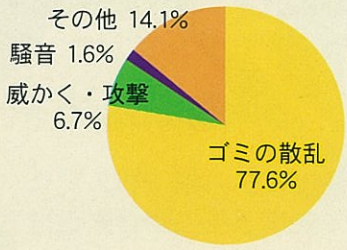
威かく・攻撃

繁殖期の巣に過度に近づくと、威かくや攻撃をされることがあります。特にヒナの巣立ちの時期（５～６月）に攻撃行動が激しくなります。

なぜ都会でカラスが増えたのか

雑食性のカラスにとって、私たちの出す生ゴミは格好の食物です。都会でカラスが増えた原因は、生ゴミなどの食物の供給が豊富であること、街路樹や電柱など巣づくりできる環境が存在することがあげられます。カラスはビルが林立する都会の立体的構造を本来の生息地である森林のように認識しているとも言われています。このように、カラスは都会の環境に順応しながら増加したと考えられます。

カラスの苦情・相談内容（1991～1992）



出典：環境庁

カラスによる被害を防ぐには…

ゴミの出し方を工夫する

ゴミの出し方を工夫することは、ごみの散乱を防止するだけでなく、長期的にはカラスの増加を抑えることができると考えられます。

生ゴミを減らす

カラスにとって生ゴミは食物です。生ゴミを少なくする工夫をしましょう。

収集時間を守って出す

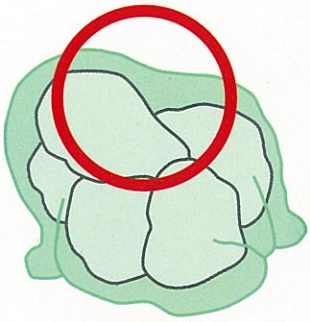
前日の夜や早朝にゴミを出すと、放置する時間が長くなり、カラスに荒らされる可能性が高くなります。ゴミを出す時間をしっかり守りましょう。

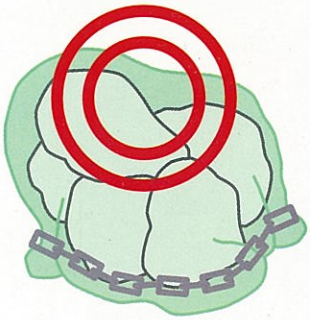
生ゴミを見えないようにする

カラスは主に視覚で食べ物を探すので、紙に包むなど外から見えないようにすると被害を減らせます。

ネットなどでゴミを覆う

カラスがゴミにふれることができないようにネットなどでゴミ袋を覆いましょう。ネットの網目は、カラスのくちばしが通らない程度の細かいものにしましょう。
ネットはゴミ袋がはみ出さないように全体を覆いましょう。鎖などで重りをつけるとネットが風などでめくれることを防げます。





●ゴミを荒らすカラス

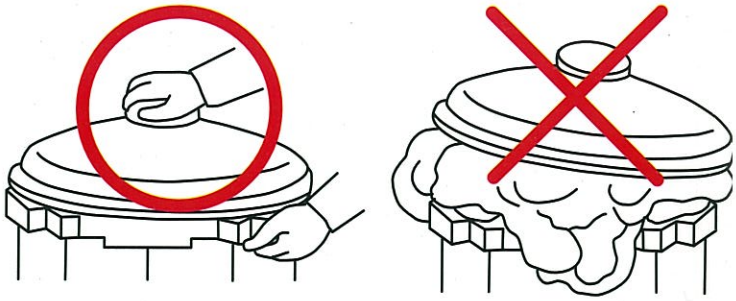
●荒らされたゴミ

●荒目と細目のあみでは、効果がちがってくる。

容器に入れて出す

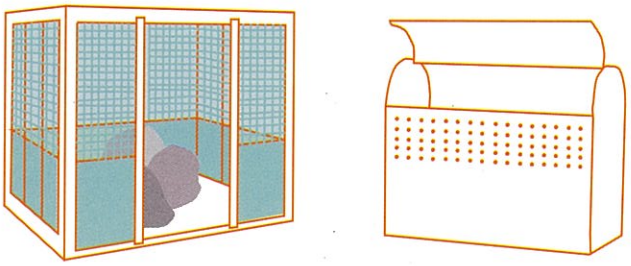
ポリバケツなどの容器に入れて出せば、より確実にカラスとゴミの接触を防げます。

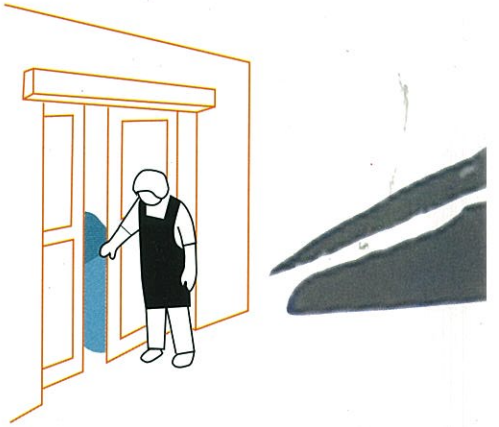
容器の上に蓋を置いたくらいでは、カラスは簡単にあけてしまいます。蓋をしっかり閉めましょう。



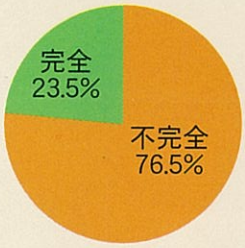
ゴミ集積所を工夫する

蓋のついた集積ボックスや、建物内にゴミの集積所を設けるなどの工夫をしましょう。

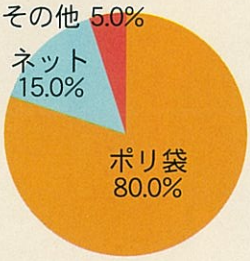




カラスに対するゴミの管理状況



カラスによるゴミの食い散らかし状況



（東京都内175カ所）
出典:日本野鳥の会研究センター・東京支部・奥多摩支部

防除器具を使う

カラスの習性などに着目した様々な防除器具があります。ただし、カラスはすぐ慣れてしまう可能性が大きいので、いろいろな防除方法を試してみるのもいいでしょう。

●目玉風船

●風車

●カラス模型

●CD

地域ぐるみで協力する

一部地域で対策を行っても、他の地域で行わなければそこでカラスの被害が発生し、結果的に被害が移動しただけになってしまいます。これでは解決になりません。被害を減らすためには地域で協力しあうことが大切です。

行動に注意する

過度に巣に近づくと威かく・攻撃されるおそれがあります。

カラスの繁殖活動

３～４月頃、公園の高木、街路樹、電柱などに巣をつくります。この時期に２羽で行動していたり、枝などの巣材を運んでいる場合は、繁殖活動に入っていると考えられます。

カラスが「カッカッ」と激しく鳴くのは、威かく行動なので、その場から遠ざかりましょう。その場に居続けると、攻撃する可能性があります。通常は頭の上をかすめて飛ぶだけですが、時には直接頭をねらって攻撃されることもあります。どうしても巣の近くを通らなければならない場合は、帽子をかぶったり、傘をさせば、被害を少なくすることができます。また執拗に攻撃される場合は、貼り紙などで通る人に注意を喚起するのも良いでしょう。

威かく・攻撃が多発する場合

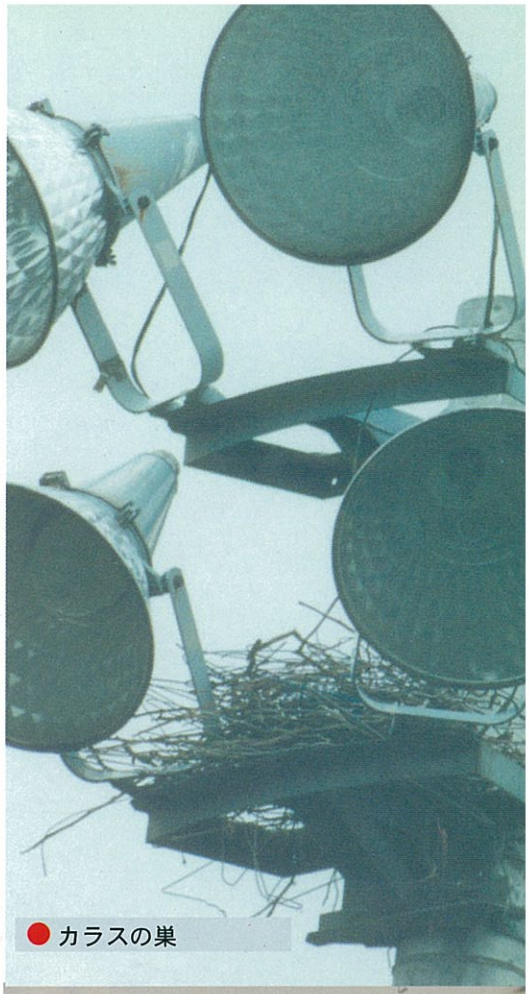
毎年被害が多発する場所では、カラスの行動に注意しましょう。激しい威かく・攻撃が繰り返される場合は、巣を撤去することも検討しましょう。

給餌(きゅうじ)をやめる

公園などでドバトやカモ類などに餌を与える光景は、よく見られます。近年、これらの鳥に混ざって餌を食べているカラスが目立つようになりました。さらに、カラスそのものに餌を与える人も増えています。

給餌をすることで、カラスは人が食べ物をくれるものだと思い、人を恐れなくなります。ゴミを荒らしているカラスを追い払おうとしても、逃げなくなったなどという例もあります。また、いくらゴミを管理しても、給餌を増やせば、食物が増え、意味のないものになります。

カラスは、絶滅の恐れがあるため給餌などで保護されている野生動物とは違い、普通に自然の中で生きていくことができます。また、天敵がいない都会のカラスは、給餌をすることで個体数が増え、人に被害をもたらします。人と野生動物の関係は一定の距離を保つことが必要です。カラスへの給餌はやめましょう。



● カラスの巣

巣を撤去するには…

カラスを含む野生鳥獣は、「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」という法律により、原則として捕獲（卵の採取を含む）が禁止されています。捕獲等のためには所定の手続きが必要です。

巣の撤去は、営巣している場所の管理者が行うのが普通です。まず管理者に相談しましょう。産卵前の巣は自由に撤去できますが、産卵以後は卵の採取やヒナの捕獲の許可申請が必要となります。巣の中で親鳥が卵やヒナを抱いていないか確認して下さい。捕獲が必要な場合には最寄りの自治体に相談しましょう。
また、巣を撤去する時は、親鳥に激しく攻撃されるので注意して下さい。

都道府県・市町村の担当連絡先

編集･発行

環境庁自然保護局：〒100-8975　東京都千代田区霞ヶ関1丁目2-2

（財）日本鳥類保護連盟：〒166-0012　東京都杉並区和田3-54-5　第10田中ビル3F

（財）日本野鳥の会：〒151-0061　東京都渋谷区初台1-47-1　小田急西新宿ビル1F

発行日　2000年3月　　イラスト(表紙・ハシブトガラス・ハシボソガラス)　薮内正幸

このパンフレットはエコマーク認定の古紙配合率100%再生紙を使用しています。